【北海道釧路湖陵高等学校】学際領域学科（設置（令和６年度））

【設置の目的及び特色・魅力ある教育の概要】

○　現代的な諸課題に対応するため、大学等で構成するコンソーシアムの支援のもと、学際的な分野に関する学校設定科目「ＫＱ(Koryo Quest)Ⅰ～Ⅲ」と、「総合的な探究の時間」や各教科・科目を有機的に結び付けた探究的な学習を重視した教育活動を展開する。

○　外部人材を積極的に活用し、課題解決に必要な資質・能力の伸長に資する教科等横断的な学習を推進することで、高校卒業後の高等教育機関での学びや、実社会に関わる課題の解決に対応したこれからの普通科の教育のモデルとしての役割を果たす。

【成果】

○　校内、地域内における新学科への理解の促進
・新学科通信の発行、新学科設置説明会に開催

○　道内外の同一事業実施高校との連携体制の構築
・視察受入、コーディネーター研修を通じたネットワークの構築

○　学校設定教科・科目への期待
・探究活動の基礎的な理論や技法の習得
・様々な学問領域を横断した学校設定科目「ＫＱⅠ」の先行実施と成果・課題の把握

【課題】

●　国内外の高校、大学等と連携
・個別の探究活動と関係機関との連携体制の強化

●　事業成果の適切な評価の実施
・長期的な視点での事業成果の正確な把握

●　コンソーシアムの理解と支援体制の明確化
・コンソーシアムを効果的に活用するノウハウの蓄積

●　事業終了後（令和７年度以降）の自走できる校内体制構築
・事業終了後の持続可能な体制づくり

【令和６年度の目標】へ

【取組状況】

①コーディネーター研修の活用と各種業務等をデータ化
②コンソーシアムを活用したフィールドワーク等の実施
③同事業実施校からの訪問受入や連携授業の実施
④新学科設置説明会や中学校訪問による広報
⑤特色ある教育活動の実施と次年度への検証を実施
⑥「KQⅠ」を発展させるカリキュラムを開発
⑦運営指導委員会（２回）、ｺﾝｿｰｼｱﾑ会議（３回）等を実施し、専門家による評価及び次年度に向けた取組への指導・助言
⑧ﾌｨﾝﾗﾝﾄﾞの高校、ｵｰｽﾄﾗﾘｱの大学とオンライン交流
⑨事業３年目に向けた課題の明確化及び充実を図る評価の実施

教育プログラムの作成

コーディネーター

教育プログラム実施時の連携

【令和５年度の目標】

①コーディネーターの人材育成と業務のマニュアル化
②コンソーシアムの積極的な活用
③同事業指定校との情報共有と連携体制の構築
④新学科に係る広報活動
⑤学校設定科目ＫＱ（ＫＱⅠ）の先行実施と内容の検証
⑥学校設定科目ＫＱ（ＫＱⅡ）の計画作成
⑦各種会議の開催による事業内容の検証
⑧海外とのオンラインを含めた交流
⑨次年度に向け、事業２年目の成果検証、評価

【関係機関との連携・協働体制の構築方法】

コンソーシアム「チーム湖陵」の設置

湖陵高校

プロモーター
釧路市内コンソーシアムメンバーで構成

支援

支援

サポーター
釧路市外コンソーシアムメンバーで構成

コーディネーターを中心に、生徒の探究活動に対応する多種多様な大学、国の機関、自治体、事業所、研究機関等とのコンソーシアムを活用(プロモーター約25団体、サポーター約30団体が参加)

別紙様式５

【北海道大樹高等学校】地域社会学科（令和６年度地域探究科設置（予定））

【地域探究科設置の目的】

○地域共創・共生社会の実現とそれに必要な資質・能力を育成すること
○「総合的な探究の時間」など探究的な学習の充実に向けて牽引・先導する役割を担うこと

【特色・魅力ある取組】

大樹スタンダード	大樹学ＰＬＵＳ	大樹高ＳＴＥＡＭ
ユニバーサルデザイン及びダイバーシティ、インクルーシブによる授業改善	総探と台湾国際交流を核とした多様性・共生社会の理解	室蘭工業大学との連携や町内関係企業との連携によるＳＴＥＡＭ教育の推進

【関係機関との連携・協働体制の構築方法】

大樹町学校運営協議会

大樹高校

地域コーディネーター

コーディネーターの役割
○探究的な学習等の企画・立案
○生徒募集、広報活動
○関係機関との連絡・調整

大樹高校サポートコンソーシアム

大樹町、大樹町教育委員会、大樹町関係企業・団体、地域おこし協力隊、室蘭工業大学

コンソーシアムの役割
○高校の教育活動への支援協力
特に探究的な学習等への協力
○高校の教育活動への指導助言

【令和５年度の目標】

(1) 個別最適化の学習体制の維持・発展
(2) 「大樹学」の見直し小中高一貫キャリア教育の協議
(3) １学年における進路・自己探究、２学年における異文化・多様性探究の工夫・改善
(4) ３学年の生徒が地域の課題解決方策等について町に提言
(5) 地域課題の解決に向けた考察の結果を情報発信する探究学習へと改善
(6) 各教科と室蘭工業大学の連携授業の内容の関連性や難易度の設定を整理し、育成を目指す資質・能力の向上に効果が現れるよう工夫・改善
(7) ＳＴＥＡＭ委員会を中心に、教科等横断型学習単元配列表を作成
(8) 新学校設定教科・科目のシラバス・ルーブリック等の必要事項を作成
(9) ＪＡＸＡのエアロスペーススクールのプログラムに参加生徒のほか、プログラムの一部を他の生徒にも提供

【取組状況】

○実施
△一部実施

(1) ○
(2) ○
(3) ○

(4) ○
(5) ○
(6) △
(7) ○
(8) △
(9) △

【成果と課題】（○成果、●課題）

○　学校設定科目の先行実施により、地域の基幹産業である第一次産業をはじめとする地域の多様な産業を題材に、他者と協働しながら地域の課題解決に向けて探究する内容への改善を図る必要があることが分かり、当初に計画していた学校設定科目「情報と宇宙」（２単位）から「地域デザイン」（３単位）に変更した。

○　大樹町が取り組んでいる航空宇宙産業誘致による町づくりに主体的に参画する生徒の育成を目指すため、より一層総合的な探究の時間と関連させ、体系的に探究活動をすることが可能な内容とした。

○　学習内容が増えることにより、単位数を３単位とし、２学年で２単位、３学年で１単位の継続履修とする教育課程を編成した。

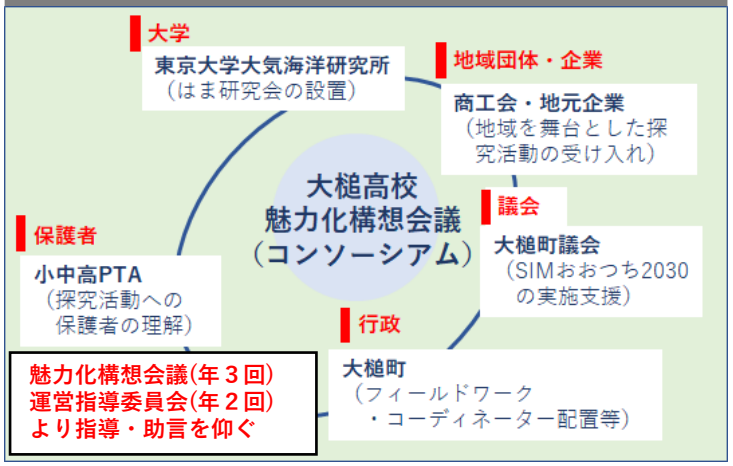
●　次年度は、「地域デザイン」の具体についてより明確化し、総合的な探究の時間との体系的な探究活動の内容について、コンソーシアムメンバーの支援・協働体制の充実を図る必要がある。

別紙様式５

【岩手県立大槌高等学校】地域社会学科（学科名：地域探究科）（令和６年度設置（予定））

事業構想	「大海を航る大槌（ハンマー）を持とう」を実現し、「学ぶことが楽しい」「もっと学びたい」と思う魅力的な学びの環境を地域と共に創る
事業目的	・多様な学びを保障する個別最適化されたカリキュラムの実現 ・復興を担う人材の育成、社会教育の拠点としての高校の実現
特色･魅力ある教育の概要	①生徒自らが選択・調整できる学び ②地域社会を舞台に学ぶ実践的な問いからはじまる ③放課後等の学校外に広がる探究的な学び ④個別最適なリメディアル教育の実践

関係機関との連携・協働体制の構築方法



令和５年度の目標

①新学科開設に向けて校内体制の整備

ア）デュアルシステム、社会教育の単位認定、セルフラーニングタイムを中心とするカリキュラム開発

イ）個別最適な学びについての検討

ウ）中学生とその保護者・地域に向けて新学科の効果的な周知

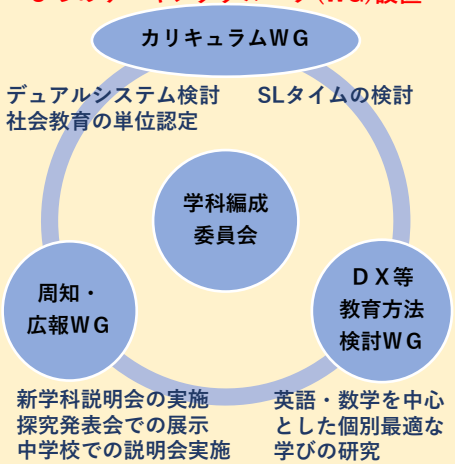
②地域を題材とした探究の実践と充実

③先進校事例の収集と情報交換の実施

④コーディネーターの有機的活用

取組状況

①全教員からなる３つのワーキンググループ(WG)設置



②地域を題材とした探究の実践と充実

・地域探究の取組を町議会、地域公民館で発表し、地域の声を聴く機会を得た。

③先進校事例の収集と情報交換の実施

・全国の13校と交流を深めた。

④コーディネーターの有機的活用

・探究活動の企画、推進役として、地域協働を推し進めた。CDN研修参加。

成果と課題

①全教員からなる３つのワーキンググループ(WG)設置

成果：新学科設置に向けて全教員が事業に主体的に関わる体制作りの構築（全体）
カリキュラム実施・推進に向けて４つの小WG内（デュアルシステム、社会教育の単位認定、セルフラーニングタイム、個別最適な学び）で検討（カリキュラム）
生徒・保護者の声を受けた個別最適な学び（英語・数学）の検討（ＤＸ）
学校説明会実施校、取組展示の機会を増やし、新学科の周知を図った（周知・広報）

課題：教員異動に伴う教員間の温度差を埋めるための円滑な取組の継承（全体）
デュアルシステム、社会教育の単位認定に向けた関係機関との調整（カリキュラム）
個別最適な学び（英語・数学）の授業化に向けた教員間の連携（ＤＸ）
地域の小中学校教員に新学科に関する理解をいかに深めてもらうか検討（周知・広報）

②地域を題材とした探究の実践と充実

成果：生徒自ら地域に出て、地域の人々の前で発表し、協働することで、自らの人生を切り拓き、挑戦しようとする生徒が増加

課題：地域との協働が進むほど、特定の生徒・グループに負荷がかかってしまう

③先進校事例の収集と情報交換の実施

成果：多くの学校と探究活動、地域との連携、教育課程、職業体験、県外留学について意見交換を行い、本校の教育活動にいかせた

課題：より多くの教職員が他校交流に参加できる体制の構築

④コーディネーターの有機的活用

成果：探究活動のさらなる充実を図り、地域と学校を繋ぐ役割を担った

課題：事業終了後も継続配置できる予算措置とコーディネータースキルの教員への伝達

⑤高校魅力化評価システムの調査結果

成果：やりたいことの増加、社会性、チャレンジの気持ち、協働性のウェルビーイングが高値となり魅力的な学びの環境を地域と共に創るという構想の具現化を確認できた

課題：調査時期が大幅に早まったことで前年同時期比較ができなかった

【浜松学芸高等学校】探究創造科（地域社会学科）（令和6年度設置）

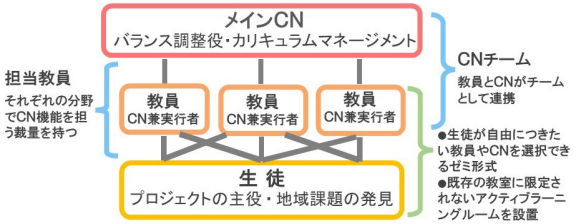
学科設置の目的と概要

- 文系・理系の両系統から地域とともに系統的な探究的な学びを展開する新学科の設立
- 探究創造科は地域創造・科学創造の両コース統合し地域社会に対して多面的な学びを展開
- 多様な価値観が共有されるSociety5.0の世界に向け、生徒が文系と理系の学びの垣根を越えた教科横断的な学びや価値観を共有
- 地域での学びを通じて将来のライフキャリアを形成

CNによる連携と協働

◀企業が参画しやすいイベントで来校機会を増加

▶CN機能を分散させることで多彩な協働が可能になるとともに学びの環境も変化



- CNを中心として外部との連携を行うと同時に、企業との直接的な授業構成などCN的な役割を教員に委譲することで、多彩なプロジェクトの実施が可能に
- 外部企業と学校をつなぐイベントを開催して参画のハードルを下げる

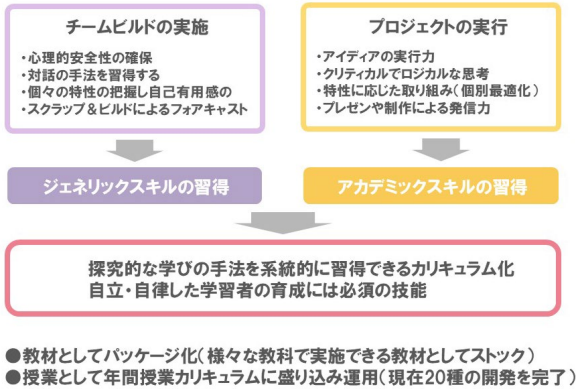
R5年度目標と状況

1. 地域での学びを、既存の地域創造・科学創造の両コースを融合させた教科横断的・系統的な学びのカリキュラムとして再構築
2. 地域企業や専門機関と連携したプロジェクト型学習を実施
3. ARTの観点を重視して成果を地域に還元
4. 実施プロジェクトを教材としてパッケージ化し、他校との協働で拡散

- 実施プロジェクトの数の拡大と学びの質の変化に繋がる
- 開発したプロジェクトの他校で実施や双方の学校を交えてのプロジェクト実践など、これまでにない拡散へ発展

成果と課題

▲系統的カリキュラムのイメージ



▲学びのためのスキル習得を教材化

- 学校設定科目を利用した3年間の探究的な学びを構築することができた。その一方で、実施プロジェクトが多くなり、そのマネジメントについては今後の課題として残った。
- 探究的な学びにもレディネスが重要で、探究のためのスキル・そしてマインドの醸成を図るためにチームビルドの教材化に成功した。しかし、教材作成や指導計画など負担も多くなった。

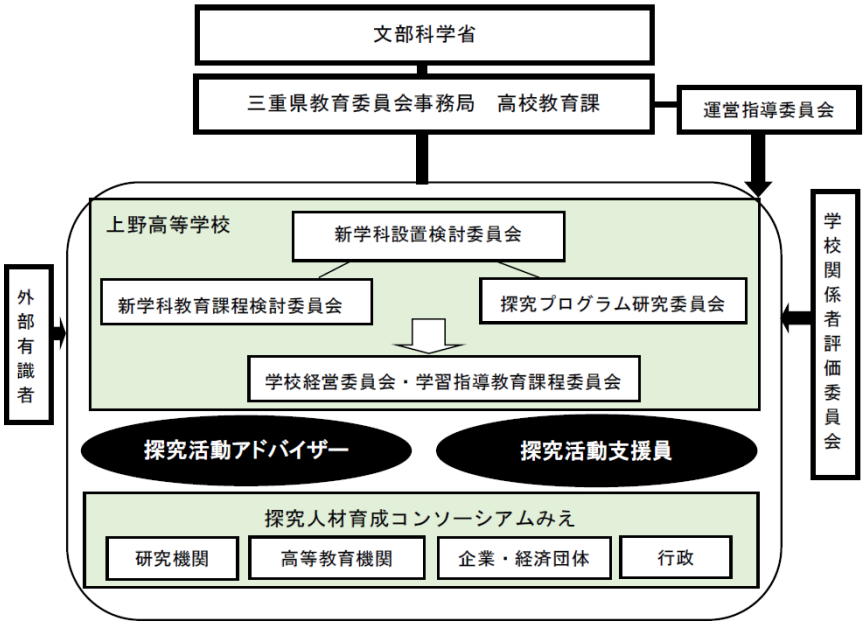
別紙様式５

【三重県立上野高等学校】学際領域学科（令和７年度設置）

1　学際領域学科設置の目的及び特色・魅力ある教育の概要

- 伊賀地域は，古くからの伝統・文化が残るものの，少子高齢化が進んでおり，地域の将来そのものが危惧されている。
- 上野高校には地域の活性化だけでなく，人材育成，学力保障等，多くの期待が寄せられている。
- 学際領域学科では，地域の期待を踏まえ，「伊賀を想い，世界を見据え，社会の課題に挑戦し続ける人材」の育成めざす。
- 現代的な諸課題のうち特にSDGsやSociety5.0をはじめとした，これまでの学問領域・分野では対応できないような，複合的かつ学際的な課題に対応していくために，「探究人材育成コンソーシアムみえ」の支援のもと，国内外を学びのフィールドとした体験的・実践的な教育活動を展開する。

2　関係機関との連携・協働体制の構築方法



3　令和５年度の取組状況と成果

「社会の形成者としての自覚と責任を持ち，他者と協働しながら，解決に向けて主体的に行動する力」の育成

1　カリキュラム及び教育方法の開発

①　探究を核とした教育課程の実現
- 新学科設置検討委員会等において，教育課程や学校設定科目，探究プログラム等についての検討

②　文理が融合した新たな学びの実現
- ＳＤＧｓに関する学習プログラムの検討（オンライン国際交流，地元のグローバル企業訪問）

③　国内外をフィールドとした実践的な学びの実現
- 上高Feel度Shotのブラッシュアップ
- 国内フィールドワークとしての「探究合宿」の検討
- 世界を知って，日本・伊賀の良さを知るために，海外への修学旅行の検討

2　探究共創ネットワークの構築

①　外部の教育力の活用
- コンソーシアムの委員を招聘した授業を実施
- 探究活動における大学生メンターの支援
- 地元のグローバル企業への訪問（工場見学，海外社員との対話等）

②　オンラインを活用した学びの充実
- 海外の学生等と交流する国際交流プログラムの実施

③　学校を越えた高校生等との協働
- 県事業「みえ探究フォーラム」での発表，評価，交流
- 「Mie SSH Research Presentation」での発表（英語），交流

4　令和５年度の課題

- 「探究人材育成コンソーシアムみえ」との更なる連携強化と効果的な活用方法の蓄積
- 中学校や地域への広報活動の更なる充実
- 上野高等学校の特色・魅力ある教育活動の認知度の向上
- 外部指標等を効果的に活用し，取組と資質・能力の伸長に係るデータの蓄積と検証結果の活用
- SDGsの視点や探究的な手法を踏まえた各教科の学習の充実
- 身につけさせたい資質・能力を明確にしたうえで，実践事例の蓄積

【京都市立開建高等学校】ルミノベーション科〈地域社会学科〉（令和5年度）

設置の目的

◆学びのモチベーションを高める探究的な学びを重視したカリキュラムの構築　◆京都の都市特性を最大限に活かし，未来を創造する力を育む教育活動の確立

特色・魅力ある教育の概要

（１）授業が変わる

◆未知のことや課題に対して生徒が自分で問いを立て、解決の方法を見出す探究的な学びを重視し、生徒の「学びたい」という意欲をかき立てる授業を行う。また、仲間や社会との対話・協働を通した学びも重視し、多様性を大切にする態度を涵養する。

◆１つのラーニングポッド（L-pod）での活動は複数の教員で指導し、生徒を多面的にサポートし、生徒一人ひとりに応じた学びを支援する。

◆机を自由に配置できる普通教室４つ分の広い学び空間＜L-pod＞を新校舎の特徴的な設備として整備し、教室のサイズ・形態を自在に変化・転換し、授業の目的や活動内容、また生徒の学びやすさによって、多様な学習活動を展開する。

（２）魅力あふれる京都をフィールドに実践する探究活動

寺社仏閣や伝統文化、企業のまち、大学のまちなどの都市特性を存分に発揮し、幅広い機関と連携して、生徒が京都で学ぶ価値を享受できるよう、多様で奥深い京都の都市特性に触れるフィールドワークや、課題の発見と解決、京都のさらなる魅力発信にも寄与する探究を行う科目を設定し、３年間を通して生徒が探究活動を行う。

（３）生徒が夢中になれる課外活動

生徒が自由に活動を企画できる「New HORIZON Day」、地域や大学等と連携した活動プログラムなど、生徒自身がやりたいことに主体的に挑戦できる課外活動の機会を地域協働コーディネーターと協力し創出する。

関係機関との連携・協働体制の構築方法

地域協働コーディネーター

（１）授業の企画・運営の助言・支援

（２）地域協働のネットワークの強化

京都市立開建高等学校　魅力あふれる京都

地域協働コーディネーター
高校コンソーシアム京都

地域協働のアクターとなる企業、団体等

・京都市南区周辺のグローバル企業・中小企業、行政、任意団体と広く連携

・高校コンソーシアム京都や京都市、中小企業家同友会等を通じたきめ細かな協力体制

令和5年度の目標

◆L-podにおける複数教員による対話・協働を軸とした指導を実践し、個に応じた支援を通じ、生徒の主体的な学びを具体化する。さらに、コアスキルを意識した探究的な学びを実践し、生徒の確かな学びと意欲の向上を図る。

◆京都をフィールドとした探究活動を行い、生徒が京都の魅力を自ら感じ、地域で活躍する企業、大学、団体等が大切にしている理念や志を受け、高校生ならではのアプローチで未来社会の創造に向かう探究活動を展開する。

◆生徒の「やってみたい」を実現する課外プログラムを実施し、多様な視点を持つ人と協働・交流しながら、意欲・実践力を高める体制を構築する。

令和5年度の取組状況

◆L-podを活かした多人数指導体制の構築と推進、教職員研修の実施

◆教科を横断した探究的学びの推進

◆「京都探究」など地域をフィールドとした探究学習の実施

◆「コアスキル」を習得・活用するプログラムの編成・実施

◆地域協働コーディネーターの活用による地域との連携強化

◆生徒の「やってみたいをやってみる」課外活動を推進、定着させていく指導体制の構築

◆他の指定校、大学等と連携した幅広い「やってみたい」の機会創出

成果と課題

◆複数教員による指導体制のあり方のモデルを複数確認した。さらなる実践と研修を通じ、継続的な生徒の変容の分析と実施体制の充実を進める必要がある。

◆生徒の主体的な学びを推進し、それを生徒が自ら振り返って把握するための非認知能力の測定や、「キャリア・パスポート」の刷新による学びの言語化の拡充を行った。

◆京都をフィールドとした探究を推進し、生徒一協力企業のWin-Winの可能性を確認した。生徒が多様な発想を巡らしながらも、真に活躍する大人の世界の深さを知り、興味を伸長する姿を確認した。ここから生徒がさらなる「やってみたい」へとつながるための支援方法の模索が課題である。

◆地域協働コーディネーターを活用した連携構築の結果、地域の企業・団体等との連携は昨年度比21社増加。生徒が自ら連携を打診したことで、関心を持っていただくケースも見られた。

◆生徒の「やってみたいをやってみる」課外活動は学校外をフィールドとした多様な学びとなっている。件数や活動規模の拡大と、なかなか勇気をもって踏み出せない生徒への個別の支援体制の構築が課題。

【兵庫県立柏原高等学校】地域社会学科・地域科学探究科（令和６年度設置予定）

●「地域科学探究科」（地域社会学科）

育成する資質・能力	**・地域課題を理解し、地域活性化や課題解決に向け積極的に関わることのできる資質・能力** **・他地域との比較や、世界的な課題との関連を探る活動を通じて多様な価値観を理解できる資質・能力** **・生活体験や地域での学び、交流から、他者と自分の差異に気づき、差異を生かす方法を考えることができる資質・能力**

【特色ある教育活動】
・地域を対象とした探究活動の展開、論文作成・発表　　・英語を含めた表現力を活用した地球規模の課題解決へのアプローチ

令和５年度の成果

総合的な探究の時間の開発

【主な取組】
・「丹BALⅠ」（第１学年）
　新たなテキストや講演会等による探究の手法の習得し、ミニ探究から基礎実践探究
・「丹BALⅡ」（第２学年）
　「丹BALⅠ」で培った力を利用し、自己の興味関心に基づいた応用実践探究
・「地域課題から世界を考える日」の開催（校内）
　「知の探究」発表会（校外）
・探究記録集の発行
【課題】
・関係機関等との連携
・探究活動と各教科の授業との連携

学校設定教科・科目の開発

【主な取組】
・学校設定科目「グローカル」の実践
　第３学年選択
　オンラインによる国際交流
　テーマ設定と個人研究の実施
　英語によるプレゼンテーション
・教科横断型探究の実施内容検討
【課題】
・研究成果の引継ぎ、担当外の教員との年間指導計画等の共通理解（探究活動との連携）
・学校設定科目「ポスター英語」「教科横断型探究」の年間指導計画の作成

成果普及・情報発信

【主な取組】
・学校ホームページでの情報発信
・他校との発表会、中学校での発表会への参加
・校内発表会や地域イベントの新聞掲載
・兵庫県立高等学校探究活動発表会への参加、交流
・報告書の作成、配付
・視察校の積極的な受け入れ
【課題】
・大学等が実施する発表会、研究会等への参加
・オープン・ハイスクールや学校説明会等での中学生への説明
・教員レベルでの中学校訪問

教員の意識・資質向上

【主な取組】
・研究推進部の設置と教職員の意識・資質向上研修
・研究推進部主導による探究的な学習により、生徒とともに教員のスキルアップも目指す
【課題】
・探究活動に対する共通理解及び指導技術の向上
・コーディネーター、関係機関と連携した探究活動の実施
・探究活動と連携した教科指導の研究および試行

コーディネーターの取組

【主な取組】
・コーディネーターによる、校内と外部との調整
・外部との連携による、新たな探究活動の提案
・令和６年度新学科設置に向けた準備での協力
・探究活動を行うプログラム開発の協力、支援
・探究活動で的確なタイミングで生徒への助言
【課題】
・校内外との連携体制の構築
・本事業終了後のコーディネーターの確保

関係機関等との連携・協力体制

【主な取組】
・探究活動等への外部講師の招聘
・運営指導委員会の開催
　⇒取組に対する助言、指摘等
・丹波市役所、丹波市教育委員会等との連携
【課題】
・コンソーシアムの構築に向けた取組

別紙様式５

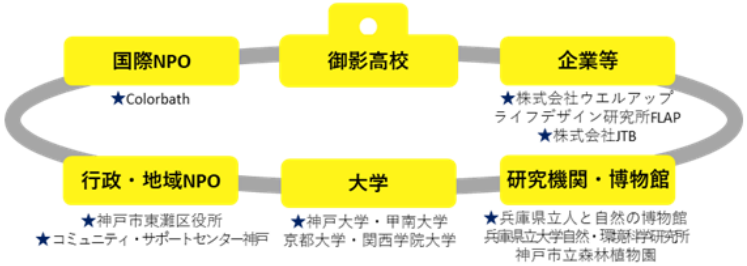
【兵庫県立御影高等学校】学際領域学科「文理探究科」（令和６年度設置）

学科設置の目的・特色ある教育の概要 ／ 広がる学び、多彩な未来

校外機関との連携

コーディネーターを活用し、新たな思考や 新たな価値観、知的好奇心を育むために、大学や行政、研究機関、企業や社会貢献を行う団体等と連携した教育活動を実践

連携機関（★はMIKAGEコンソーシアム参画機関）



学際的に取組む探究活動

探究のプロセスを体系的に学び、自らの興味関心に応じた探究活動や、地域に関する探究活動に学際的に取組む授業を設定し、生徒個々が主体的に探究を実践

学科独自の開講科目

教科の専門知識を幅広く受講を可能とするとともに、実社会で活かすことができる「読解力」や「論理的思考力」「対話力」「表現力」等を磨くための科目を設置

1年　Cross Ⅰ・Creation Ⅰ
2年　Cross Ⅱ・Creation Ⅱ
　　クリティカルシンキングA・Creative Presentation
3年　Cross Ⅲ・クリティカルシンキングB

グラデュエーションポリシー

- **地域や国際社会のありようにしっかり目を向け**、**社会に貢献しようという志**をもち、さまざまな**事象の解決や是正、および、原因の追究に粘り強く挑戦し続ける**ことができる生徒
- **人文・社会・自然科学の専門知識**を深め、事象を**多面的に認識ができる**ようになるとともに、自らの**読解力や論理的思考力を磨き**、新たな価値を見出だそうとする**好奇心をもつ**生徒
- 地域や国際社会に生きる**さまざまな方と対話を重ね**つつ、**自ら学び、考えて行動できる主体性**や、周囲の仲間と**協働しながら物事に取り組む**中で、**リーダーシップが発揮できる**生徒

主体性　協働性　課題解決能力　言語表現スキル　多様な認識

予測不能な未来において活躍できるリーダーを育てる

令和５年度の取組成果・課題 ／ 学科開設準備最終年度

コーディネーターの増員と業務の明確化

・取組［令和４年度→令和５年度］
コーディネーター配置数［２名→３名］
３名の業務分担を実施し、各々のスキルが活きる活動に従事。

・課題
令和７年度以降の在り方の検討
コアタイムの設定
「目指す体制」の確立

広報活動の充実

・取組
中学校71校に訪問・中学校等主催説明会に14回出席
説明会は10日間・20回実施（3300名を超える申込）
県内外の高等学校からの視察についても対応

・課題
広報活動の継続
説明会の実施方法検討
現役生による説明の実施

■目指す体制

校外組織
運営指導委員会
カリキュラム開発会議
コンソーシアム会議

援助・助言 →
← コーディネーター
← フィードバック

校内組織
特色づくり委員会

目的に基づいた実践 →
← 特色教育推進部・学年・教科
← 取組み・成果

アイディア・リソース提供 ↔

文理探究科
mikage senior highschool
令和６年度開設（定員40名）

関係機関との連携強化

・取組［令和４年度→令和５年度］
コンソーシアム会議数増［１回→３回］
コンソーシアム参画企業の一部変更
コンソーシアム団体による授業の実施

・課題
さらなる協働体制の構築に向けて、協議を進め、「目指す体制」を確立

コンソーシアム全団体による授業「グローカルコンシャスデイ」

カリキュラム検討・学びの先行実施

・取組
学際的に取組む探究活動を軸とした
Cross Ⅰ・Ⅱ、Creation Ⅰの先行実施
クリティカルシンキングAの開講

・課題
次年度以降本格実施できるよう「試行－検証」を繰り返し、先行実施科目の充実化
次年度より先行実施する科目の実践・検証

別紙様式５

【和歌山県立新宮高等学校】学際領域学科（令和７年度設置（予定））

【　学際領域学科設置の目的・育成する人材像　】

学際的な学び・文理融合型の学びを実現し、予測困難な現代社会で活躍できる人材を育てるため。

①物事を多面的・包括的に捉え、人や自然・文化を大切にできる人材

②地元地域や国内外でイノベーターとして活躍できる人材

【　学際領域学科で育みたい資質・能力　】

①分野にとらわれない幅広い知識・豊富な技能、およびそれらを活用できる力

②創造的・批判的思考力　　③主体性、協働性、市民性

【　特色・魅力ある教育の概要　】

学際的な学び・文理融合型の学びを実現するため、カリキュラム開発、「総合的な探究の時間」・「くまの学彩」の実践、教科・科目等における教科科目横断型授業・探究的な学びの研究に学校全体で組織的に取り組む

令和５年度の目標

(A)学際的な学び、文理融合型の学びを実現するためのカリキュラム開発

(B)「総合的な探究の時間」「くまの学彩」による探究的な学びの充実

(C)各教科・科目においても探究的な学びを実践するための授業研究

取組状況

(A)文系・理系のコース選択を撤廃、生徒が学びたい科目を主体的に選択

(B)令和５年度１学年より「くまの学彩」をスタート

◇地域・国内・国外・共通のカテゴリーと観光・歴史・医療・環境・スポーツなどのジャンルを組み合わせ、講演会・校外学習を実施。

◇最先端・先人の幅広い知識、ホンモノを体験することで現代社会の諸課題に触れ、興味・関心を刺激

◇２年次の探究学習のテーマ設定を見据えるとともに、キャリア教育の側面からもカリキュラムを設計

(C)令和４年度からの教科科目横断型の授業実践に加え、教科指導における「探究的な学び」の授業研究に着手

【運営指導委員会・コンソーシアム】

和歌山大学、和歌山県立医科大学、和歌山県教育委員会、ヤマネ・いきもの研究所、新宮市役所、南紀熊野ジオパークセンター、和歌山県世界遺産センター、東京医療保健大学、新宮ユネスコ協会、東京大学、国立スポーツ科学センター

⇒①運営指導委員会における指導・助言

⇒②「くまの学彩」での講演・校外学習の企画

⇒③「総合的な探究の時間」の課題探究での連携

成果と課題

【成果】

◇「くまの学彩」を始動させ、軌道に乗せることができた。「総合的な探究の時間」についても従来の取組を見直し、実践内容を精選・発展的に深化させることができた。

【課題】

◇学際領域学科の設置に向け、カリキュラム開発を継続すること。

◇探究的な学びをより充実させるための体制づくり。

【和歌山県立串本古座高等学校】地域社会学科（令和６年度設置（予定））

令和６年度入学生からの「宇宙探究コース」「文理探究コース」「地域探究コース」の設置に向けて、段階的に調査研究を実施

《設置の目的》

地域の様々な教育資源を活用し、自らの在り方・生き方としっかり向き合い、確固たる世界観や価値観、変化に柔軟に対応していく力、将来への展望等を併せもつ、Society 5.0 を生き抜くために必要な力を育成する

清流古座川、ラムサール条約登録地である沿岸海域のサンゴ群落、世界遺産として登録された紀伊山地の霊場と参詣道、南紀熊野ジオパーク、民間ロケット発射場「スペースポート紀伊」、1890年のエルトゥールル号遭難事件以来のトルコとの交流など、地域の多様な教育資源を活用し、**「宇宙探究コース」「文理探究コース」「地域探究コース」**の３つのコースをもつ**新たな普通科である「未来創造学科」**の設置に向けた調査研究を段階的に実施する

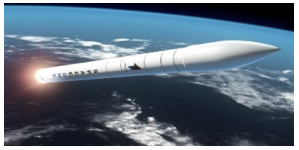
≪ロードマップ≫

R4　R5　R6　R7　R8

【令和４年度・５年度】

- 「総合的な探究の時間」における地域探究学習（ジオパーク・環境・歴史・文化・宇宙・ロケット等）
- 地域資源を活用した学校設定科目の充実（既存科目の見直し、新設等）
- 地域と連携した特別活動・課外活動

特別講演・校外研修（宇宙・地域の学び）



【ロケットのイメージ　※スペースワン社提供】

【串本町　橋杭岩】

２年間

- **学科の枠組み**
- **カリキュラム編成**
- **教科・科目の内容**

などの調査研究

【令和６年度】

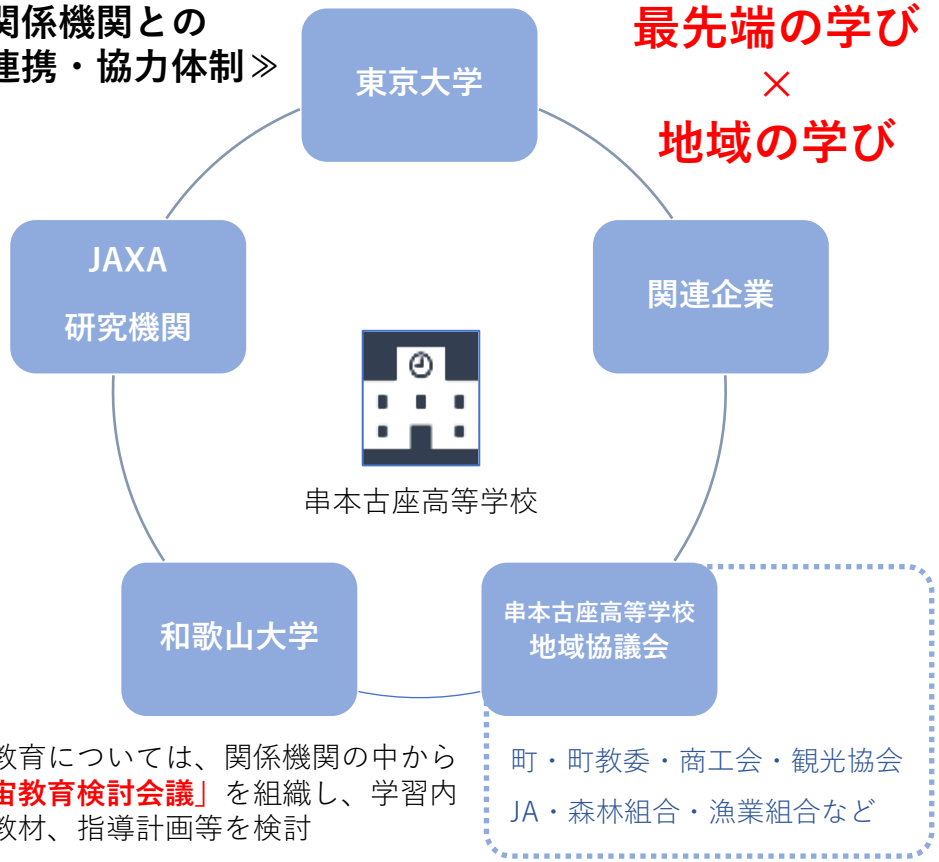
- 新たな普通科の新設

未来創造学科

宇宙探究コース	文理探究コース	地域探究コース

≪関係機関との連携・協力体制≫

最先端の学び × 地域の学び



宇宙教育については、関係機関の中から**「宇宙教育検討会議」**を組織し、学習内容や教材、指導計画等を検討

別紙様式５

【和歌山県立橋本高等学校】学際領域学科（仮称）（令和７年度設置予定）

00
変化する社会の課題に対応し、自己有用感を持ち社会貢献できる人材を育成する

01
多様な価値観との出会いと自らの考察の深化

02
他者を意識したプレゼンテーション作成と発表能力の向上

03
複合的視点における課題解決方法の模索・発信

活動実績

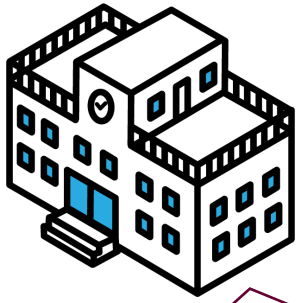
- 朝日新聞講演
- プレゼンテーション講演
- 橋本市役所へインタビュー
- 人権教育講演
- ＳＤＧｓ大学実施研修
- 企業訪問
- 総合的探究の時間中間発表
- 地元小学校との交流
- 世界遺産講演・実施研修
- 海外留学生との交流（和歌山大学）
- 海外留学生との交流（大阪観光大学）
- 校内全体発表会
- 橋本市役所への提言
- 国内高校生オンライン交流（北海道釧路湖陵高校）
- 海外高校生オンライン交流（フィンランド）（マレーシア）（台湾）（オーストラリア）

関係機関との連携・協働体制の構築方法

コンソーシアム

公共財団法人
　ユネスコ・アジア文化センター
和歌山大学
JICA
認定NPO法人　日越関西友好協会
橋本市役所
大阪観光大学
株式会社JTB
株式会社スマイリーアース
（令和6年度より所属予定）

海外交流等の支援



指導・助言

運営指導委員会

和歌山教育委員会　学校教育局県立学校教育課
橋本市教育委員会　生涯学習課・学校教育課
橋本市役所　総合政策部政策企画課
公益財団法人　和歌山県国際交流会
和歌山大学　教育学部

- コーディネーター
- 特色教育推進部
- 世紀の空経理部門
- 世紀の空推進実行委員会

【成果】

国内・海外の高校生、国内外で活躍する社会人などの他者の価値観に触れながら研究を深めることを計画し、総合的な探究の時間との相関的な活動として、教科横断授業を組み込んだ世界遺産学習、大学や企業等の外部機関と連携した学習、海外との交流を行うことができた。

【課題】

・「世紀の空」と「総合的な探究の時間」の効果的な連携と運営方法の構築、各教科等との関連付けなど、カリキュラム・マネジメントを充実させる。
・他の学校行事との重複を考慮し、講演・実地研修の時期・内容を見直すことにより、事前・事後の学習時間を確保するとともに、さらに広い視野での課題設定力とデータに基づいた論理的な発表力を強化する。
・高等教育機関、企業などの外部機関との連携を強化し、継続的なものにするとともに、留学生や国内外の高校生との意見交流、討議をさらに促進する。

別紙様式５

【島根県立隠岐島前高等学校】地域社会学科（設置（令和４年度））

設置の目的

離島に位置する申請校および隠岐島前地域の育てたい人材像である「グローカル人材」の育成に向けて、これまでよりもさらにグローカルなフィールドで学ぶ機会や環境を整備するため。

特色・魅力ある教育の概要

「島まるごと学校」をコンセプトに約15年間地域をフィールドに海外の視点も入れながら、地域課題解決型・価値創造型の探究学習を推進し、地域内だけでなく、全国・海外から集まる生徒の多様な興味関心や価値観で切磋琢磨しながら学ぶ土壌がある。

令和５年度の目標・取り組み状況

本構想において実現する成果目標（アウトカム）	R5目標	達成状況
卒業後のグローカルな進路選択者 （スーパーグローバルユニバーシティや地域協働系学部への進学割合）	15%	18.6%
卒業後も隠岐島前地域に積極的に関わろうとする生徒数（関係人口数）	15人	22人
地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）	**R5目標**	**達成状況**
主体性、協働性、探究性、社会性における「自己能力認識」で肯定的意見が75%以上	76%	主体性:68.3% 協働性:79.7% 探究性:74.3% 社会性:72.6%
主体性、協働性、探究性、社会性における「行動実績」で肯定的意見が80%以上	80%	主体性:79.0% 協働性:81.0% 探究性:75.9% 社会性:75.2%
安心・安全の土壌、多様性の土壌、対話の土壌、開かれた土壌における生徒の肯定的意見が90%以上	88%	主体性:94.3% 協働性:92.6% 探究性:89.3% 社会性:86.0%
学び共創フォーラムへの参加者数	75人	９月：76人 ３月：45人

関係機関との連携・協働体制の構築

学校経営会議
（本事業を学校経営に位置付ける）

共創DAY運営チーム
（教員・コーディネーター）

推進協議会（学校運営協議会）
（事業進捗について地域の方とも共有）

運営「共創」委員会
（外部有識者とカリキュラム共創）

成果と課題

【成果】
- 独自の伴走・支援体制構築と運用
- 成果目標（アウトカム）に関し、目標値を上回る進路実績
- 成果目標（アウトプット）に関し、地域共創科生徒の自己認識の大幅な伸び

【課題】
- ゼミの効果的な機能
- 新学科に関する地域の理解・浸透
- 伴走を支援する人的リソースの追加・確保
- 生徒一人ひとりの活動の継承、アーカイブ化

別紙様式５

【愛媛県立三崎高等学校】社会共創科（令和６年度設置）

【目的】
- **変化の激しい社会を たくましく生き抜くことができる人材の育成**
- **地域社会とつながる人材の育成**
- **地域社会学を教育課程に位置付けた ＳＴＥＡＭ教育・キャリア教育の推進**

【特色・魅力ある教育の概要】
- **みさこうＳＴＥＡＭ教育**
- **地域社会とつながる授業**
- **みさこうせんたんプロジェクト**

【関係機関との連携・協働体制の構築方法】
（運営指導委員会）
- 三崎高校における本事業の運営に関し、専門的見地から指導・助言・評価等を実施

（県教育委員会）
- 地域魅力化コーディネーターの配置
- コンソーシアムへの参画
- 「えひめスーパーハイスクールコンソーシアム」など、県が実施している事業への参加に係る支援

【令和５年度の目標】
- 「今を創る、未来を変えるトライブ」の実施
- 「地域特別講師データベース」の作成
- 「教科等横断型授業」の実施
- 社会とつながる教育課程の編成

【取組状況】
- 「今を創る、未来を変えるトライブ」を令和５年12月18、19日に実施。**県内外から７校が参加**
- インターンシップの受け入れや「未咲輝（みさき）ゼミ」講師依頼等で「地域特別講師データベース」を活用
- 学校訪問研修に合わせて、全授業で教科等横断型授業を実施
- 新学科の設置に伴い、**新しい教育課程**を編成

【成果】
- **令和６年度に設置する「社会共創科」**において、授業時間数を週33単位から週**29単位**に変更するとともに、**探究活動を軸とした新たな３コースに改編**
- コーディネーターの配置による事業推進体制の強化
- 「地域特別講師データベース」の活用による**連携人材の増加**
- STEAM教育、教科横断型授業に関する職員研修及び実践

【課題】
- スケジュールの管理・調整
- 全国から入学してきた生徒たちとの高校卒業後の連携
  →**ＩＣＴやオンラインを活用**した**「オンラインせんたん部」「花橘会**（卒業生のオンライングループ）」など、支援組織の構築

【新しい取組の計画】
- 「今を創る、未来を変えるトライブ」…**地域や人・モノの魅力を再発見し、その価値を発信していく力を育成する**ための高校生フォーラム
- 「未咲輝（みさき）ゼミ」…放課後等の時間に外部人材を講師として、**生徒の興味・関心に合わせた、より自走性の高い探究活動**を行う。今年度は２講座を先行実施、来年度は10講座程度開設予定
- 「jobフェアinみさこう」…本校２年生及び伊方町出身の大学２年生を対象とした**伊方町・八幡浜市の企業による合同企業説明会**

【高知県立清水高等学校】　未来共創科（仮称）　（令和７年度設置（予定））

清水高校の学際的学び「ジョン万次郎×ＳＤＧｓ」

SDGsについて、ジョン万次郎の生き方や考え方と重ね合わせながら探究する。また、小中高が一貫して取り組むことができるような系統的なカリキュラムを開発する。

目指す人物像　　**21世紀のジョン万次郎**

①自然科学、社会科学、人文科学の各分野について、横断的に学び、専門性にとらわれない柔軟な思考を身に付けている。
②課題や目的を自ら設定し、国際的な視野で問題を解決しようとする態度を身に付けている。
③多様な他者と協働して新たな価値を創造する力を身に付けている。

令和5年度の目標

①特定の分野に偏らない学びを実現させるため、文理融合した教科等横断的なカリキュラムを開発する。
②最先端の科学を学ぶため、自然科学・社会科学・人文科学等の分野について、大学、研究機関、官公庁、民間企業等と連携する。
③国際的な視野を身に付けさせるため英語教育を充実し、国際交流を促進する。
④コンソーシアムと連携し、学校内外が一体化した教育活動を行うことで、社会に開かれた教育課程を実現する。

「論理国語と地理総合による教科等横断的な実践」

教科等横断的な授業実践を通じて、各教科等の学びを基盤としつつ、様々な情報を活用し、課題の発見・解決に結び付けていく資質・能力を育成する実践事例

「SDGsに関する探究的な実践」

外部機関と連携し、SDGsの目標実現に向けた取組を検討するとともに、地域の課題や地域の魅力を発信する実践事例

「グローバル人材育成を目指した実践」

海外への短期留学や、海外姉妹都市校とのオンライン交流を通じて、実践的な英語力を身につけ、国際的な視野を育成する実践事例

推進体制

運営指導委員会からの助言等を校内検討委員会において具体的に取組案として策定し、コンソーシアム及び小中高担当者会で実践例に係る協議を行い、実践する。

運営指導委員会
近森 憲助（高知学園大学　教授）
伊藤 博明（高知県公立大学法人　理事長）
岩坂 二規（関西学院大学　教育学部准教授）
斧川 哲也（土佐清水市教育委員会）
長岡 幹泰（高知県教育委員会）

事業計画全体への指導・提案

コンソーシアム
高知工科大学
高知大学
土佐清水ジオパーク
（株）リクルート
（株）キャリアリンク
清水小学校
清水中学校

総合的な探究の時間及び学校設定教科・科目に係る連携

校内検討委員会
校長
教頭
事務長
主幹教諭
総務主任
教務主任
生徒指導主事
進路指導主事
各学年主任
コーディネーター

土佐清水市中高担当会
【探究】
清水小学校担当者
清水中学校担当者
清水高校担当者
土佐清水市教育委員会
コーディネーター
【英語教育】
清水小学校担当者
清水中学校担当者
清水高校担当者
土佐清水市教育委員会
土佐清水市教育研究所
コーディネーター

小中高一貫カリキュラムに係る連携

取組の検討

ワーキンググループ
総合的な探究の時間ワーキンググループ
学校設定教科・科目ワーキンググループ
国際理解教育ワーキンググループ

成　果

①論理国語と地理総合の授業において、教科等横断的な授業実践を行うことで、他教科とのつながりや、SDGsの目標に結びつく提案授業となった。
②フェアヘイブンへの短期留学や台湾現地校生とのオンライン交流を通じて、異文化理解を深めることや英語での発信力を高めることにつながった。
③運営指導委員からの助言により、土佐清水の地域課題を踏まえた探究活動の見直しにつながった。
④地域連携コーディネーターを配置したことにより、地域人材を活用した探究実践が増えるとともに、生徒の探究活動の深化につながった。
⑤コンソーシアムとの連携・協働した取組の実践により、専門家による探究の講義や、土佐清水の恵まれた地域資源を活用した学びの実践につながった。

課　題

①小中高連携した探究の取組を進めているものの、連携した実践事例は少ない。各校担当者間を通じてさらに連携した取組の必要がある。
②大学や研究機関等との連携の機会が不十分であり、コーディネーターを中心とした連携体制を再考する必要がある。
③地域や保護者等に向けた情報発信の機会が少なく、新学科の目的や取組等の理解が進んでいない状態にある。新学科に対する理解を促すための広報活動が必要である。

【福岡県立八幡高等学校】学際領域学科(令和6年度設置)

スクール・ミッション　自身の幸せな人生と、未来の幸せな社会を、しなやかに創造する心豊かな人材を育成する学校

文理分断的思考からの脱却

持続可能な社会をしなやかに根気強く創ろうとする姿勢

教科科目横断型授業

複数の教科科目を融合することで初めて見えてくる物事や事象の諸相を分析することで、学問と社会との繋がりや、生きる上での学問の意義を感得させ、自ら主体的に学問に向き合っていく姿勢を育成し、実践につなげる。

夢現∞プロジェクト

SDGsの実現やSociety5.0の到来に伴って生じる課題に着目し、将来の国際社会及び日本社会における課題の発見・解決に資する知識、技能の習得と、その活用に関わる思考力、判断力、表現力を育成し、実践につなげる。

特色ある教育活動

コーディネーター
❶学校と地域をつなぐ調整役
❷教員と生徒をサポート

運営指導委員会

管理機関・行政機関・教育機関で構成される
❶学校行事や教育活動に関する指導・助言
❷カリキュラム検討に関する指導・助言
❸事業全体に関する指導・助言

指導・助言

コンソーシアム

八幡高校・行政機関・教育研究機関・地元企業で構成される
❶カリキュラムの検討
❷評価方法に関する検討
❸事業進捗状況の確認
❹探究活動への指導・助言
❺生徒探究活動への参加協力

関係機関との連携・協働体制の構築

令和5年度の目標と取り組み

〈目標〉
○新学科「文理共創科」設置の準備と関係機関との協働体制の継続

○特色ある教育活動の体系化と外部への情報提供(公開授業等)推進

〈取り組み〉
○意識調査の実施

○定例会議(校内・運営指導委員会・コンソーシアム運営会議)の実施

○教科科目横断型授業と夢現∞プロジェクト成果発表会の公開

令和5年度の成果と課題

〈成果〉
○多角的な視点を持ち対話することの大切さを実感している(意識調査結果)

○多様な視点から指導・助言を頂き、産学官協働体制が強化された

○特色ある教育活動の成果を、広くPRすることができた

〈課題〉
○カリキュラムマネジメント(主に評価)に関して検討を継続する

○新たな関係機関との連携を密にし、専門的な視点から指導・助言を求める

○次年度も継続して、校外への公開授業等を推進する

別紙様式５

【北九州市立高等学校】　地域社会に関する学科「未来共創科」（令和6年度設置予定）

新学科設置の目的

市内唯一の「市立」高等学校の強みである北九州市のリソースを活用して、
「産・官・学・民」と連携・協働しながら、
絶えず変化する未来の社会や世界をけん引する若者を育成します。

北九州市立高等学校・北九州市教育委員会

コーディネーター
- 外部との連携調整
- カリキュラムの開発
- 教職員研修の企画
- 広報面の魅力化など

学びたいことを積極的に提案（主体性・企画力）

提案に応じた学校支援

情報ビジネス科との協働・交流（商業のノウハウなど）

運営指導委員会
事業の目的・年間計画等の検証・確認等

「産・官・学・民」連携によるコンソーシアム

令和５年度の目標

【対 市民、ステークホルダー（中学生等）】
- 新しく生まれ変わる本校の取組の周知、理解促進
- スクール・ポリシーの策定・公表
- これまでの入試のあり方の見直し

【対 校内（教職員、生徒）】
- 教職員との共通理解（探究的な学びの重要性など）
- 新カリキュラム案のプレ実施（自前から外部との連携・協働へ）
- そろえる教育から伸ばす教育へ
- 生徒と共につくる「シン・イチリツ」

取組状況

- ✓ PR動画の製作・放映、SNS等の活用
- ✓ 教職員の柔軟かつ斬新なアイディアを盛り込んだ魅力的な広報活動
- ✓ 夜間実施の保護者説明会（初）
- ✓ 学則改正（Web出願が可能に）
- ✓ スクール・ポリシーを踏まえたコミュニケーション重視型の特色化選抜
- ✓ コンソーシアム及び運営指導委員会の開催
- ✓ コーディネーターの配置（３名）
- ✓ 北九州市立大学からの長期学生インターンの受入れ
- ✓ リーダーシップ研修の実施
- ✓ 九州栄養福祉大学及び西日本工業大学との連携協定の締結（食を通した地域課題の解決、esportsなど）
- ✓ 外部人材による出前授業等
- ✓ 福岡県中小企業家同友会との連携による共育型インターンシップの実施
- ✓ 大学や中小機構と協働した起業家教育の推進

成果と課題

（○：成果、●：課題（Ｒ６への持ち越し））

○新しいことへのチャレンジを楽しむ教職員の増加
○変革を楽しむ大人（教職員）を見て「私たちもやりたい！」が増えてきた生徒たち
○「一緒にやりませんか？」の依頼の増加
○特色化選抜における志願倍率の上昇
○リーダー生徒が他の生徒を引っ張る体制の構築
●Web出願方式、入試の検査方法、選抜方法の更なる改善
●大学や行政、企業などからの依頼対応（取捨選択の難しさ）
●新しい学校設定教科の実証のほか、学校で行われるすべての教育活動の改善・発展
●生徒の主体性に焦点を当てたカリキュラムの継続及び持続的な発展

【長崎県立松浦高等学校】地域科学科（地域社会学科）（令和４年度設置）

目的

地域社会の未来を担うリーダーの育成
～目指す資質・能力の涵養と地域活性化への貢献～

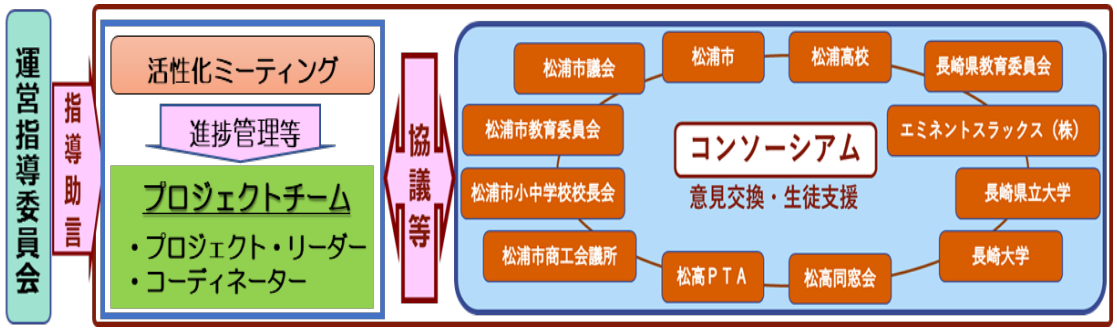
目標

Ⅰ 生徒個々のキャリアプランに基づく進路希望の実現
Ⅱ 中学校、大学等との協働による地域活性化への貢献
Ⅲ 県内外の「地域高校」との連携等による学校活性化

特色・魅力ある教育の概要

地域社会から得られる様々な分野の知見を学ぶことにより教養を深め、現在及び未来の地域社会が有する課題や魅力に着目した科学的・実践的な学びに重点的に取り組む
（研究テーマ例）
〇民話を活用し地域活性化～カッパの頭と松浦の経済に潤いを～
〇農業支援～長崎の廃れてしまった伝統野菜を復活させる～
〇廃校を活用して自然の家にする～松浦あジョブる自然学園～

関係機関との連携・協働体制の構築方法



	令和５年度の目標	実施内容（取組状況）	令和５年度の成果（〇）	令和５年度の課題（●）
計画Ⅰ	キャリアプランの作成状況を踏まえたルーブリック評価基準の検証・改善・各教育活動への反映	〇自分たちの興味・関心に基づき課題を設定し、その解決策を発表した。 〇ルーブリックに基づいて、各活動の振り返りの際に自己評価を行った。 〇「松高ポートフォリオ」に、各活動の振り返りを記入した。	〇各プロジェクトの進捗状況を確認しながら、ルーブリックによる自己評価を行うことができた。 〇大学との協働により、身に付けさせたい資質・能力ごとにルーブリックを再構成することができた。	●各プロジェクトに対する教員（ファシリテーター）による支援の在り方についての共通理解が不十分である。そのため、生徒に自らの成長等を実感させることが十分にできなかった。
計画Ⅱ	前年度の検証等を踏まえた支援体制の充実と生徒の探究活動への支援の検証・改善	〇長崎大学の支援のもと、地域素材を活用した授業づくりに取り組んだ。 〇発表会に地元の社会人や長崎県立大学の学生等を招き、多方面から助言をもらうことができた。 〇小・中学校でプロジェクトの成果を発表することができた。	〇７教科において地域素材を活用した授業づくりに取り組み、中学校との合同授業（地歴・社会）も行った。 〇大学生には複数回発表会に参加してもらうことができた。また、大学訪問を実施することができた。 〇生徒と地域リソースとをマッチングする「まつうら高校応援団」を創設した。	●課題設定力や課題解決に必要なスキル（データ収集・活用・分析力等）の育成が不十分である。 ●「まつうら高校応援団」の運用など地域との連携の在り方を引き続き検討していく必要がある。 ●大学による支援がその場限りとなっており、より継続性のある関係を構築する必要がある。
計画Ⅲ	「地域高校」ネットワーク参加校における協働・活動の推進	〇県内の高校教員や地域住民も巻き込んで外部講師を招聘した研修会（３回）を実施することができた。 〇立命館宇治中高のＷＷＬコンソーシアムに参加し、情報交換を行った。 〇宮崎県立飯野高校主催のグローカルリーダーズサミット等に、外部の研修会に生徒が参加した。	〇研修会を通じて、学校の魅力化や探究活動に関する情報共有ができた。 〇外部との交流によって、生徒の探究活動に対する意識やキャリア意識の高揚を図ることができた。	●研修会後の教員間、参加者間での振り返りや意見交換の時間を十分にとれなかった。 ●本校を中心とした生徒交流会を実施することができなかった。 （令和６年１２月に実施予定）

【宮崎県立飯野高等学校】地域社会学科（令和８年度設置（予定））

地域社会学科設置の目的及び特色・魅力ある教育の概要

本校の所在地である宮崎県えびの市でも地域社会が直面する様々な課題の解決を図るため、高校と地域との協働による新時代の人材育成に向けた新たな高校づくりが必須である。グローカルな複眼の視点で地域課題を俯瞰・分析し解決に向けてアクションを起こす人材を育成するため、創造的なカリキュラムにより以下を実現する学科の設置を目指す。
①次世代に必要な力を地域と共育する学びへの転換　②画一的な普通科の在り方を見直し、共学・共育により教育マインドの転換
③地域社会の様々な分野におけるリーダーを育成する地域創生の拠点を形成

令和5年度の目標

①新学校設定科目のプレ実施と検証　②コーディネーターの増員、配置による効果検証　③共創パートナーとの連携　④新学科における学びのあり方の研究

取組状況

ローカル+グローバルで地域課題を俯瞰して考え、実践する活動を展開

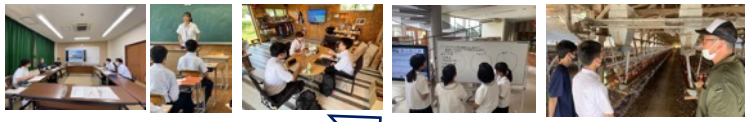
県外・海外研修へのチャレンジ　約50名

課題を俯瞰し、出た問から解決にむけて**地域で実践**する取り組み。

デザイン思考などを活かした新たな学びの手法を導入した探究活動

超探究の日の実施

外部講師による様々な学びやワークショップ、対話
探究プロジェクトに終日取り組み、普段得られない学び



コーディネーターの配置
（常駐2名）

①進路指導部内への配置・毎週のMTG
②探究活動における外部とのコーディネート・伴走
③生徒募集にかかる活動

学びの往還を考える職員研修
・これまでの探究活動を柱に各教科での実践
・教科横断による探究的な学びについて
・地域との協働による各教科の学び

飯野高校を守り育てる市民の会

「共学」「共育」の視点による**地域と連携・協働**

魅力化コアチーム委員会

外部リソースとの連携強化

共創パートナー制度の実施

33名登録

・探究活動におけるアドバイザー、サポーター的役割
・宮崎大学教員（元CN）とのCN向け研修・共同研究

別紙様式５

事業への取り組みにおける成果

【主体性に関わる学習環境】	90.2%
【協働性に関わる学習環境】	84.8%
【探究性に関わる学習環境】	83.4%

課題→事業の取り組みを地域(小中学校含む)認知

高校を核とした地域社会全体で「共創」する人材の育成

【熊本市立必由館高等学校】地域社会学科（令和6年度設置予定）

教育理念：　自ら考え、主体的に行動し、多様な人々と協働しながら、自らの人生とよりよい社会を創造する力を育てる学校を目指す

革新的な教育活動の実践

《育成する資質・能力》

Ⅰ　多様な価値観を尊重し、新たな価値を創造する力
Ⅱ　社会に関する理解を深め、地域の課題や魅力を見出す力
Ⅲ　分野横断的に課題を分析し、論理立てて表現する力
Ⅳ　自己の興味・関心に応じて、生涯にわたって学び続ける力

《特色・魅力ある先進的な教育の取組》

①少人数によるクラス編制、生徒が主体的・協働的に学ぶ仕組
多様な生徒へのきめ細かな指導、支援を実現１クラス30人または35人の少人数によるクラスを編制(令和6年度入学生から)。生徒が主体的・協働的に学ぶことのできる授業づくり

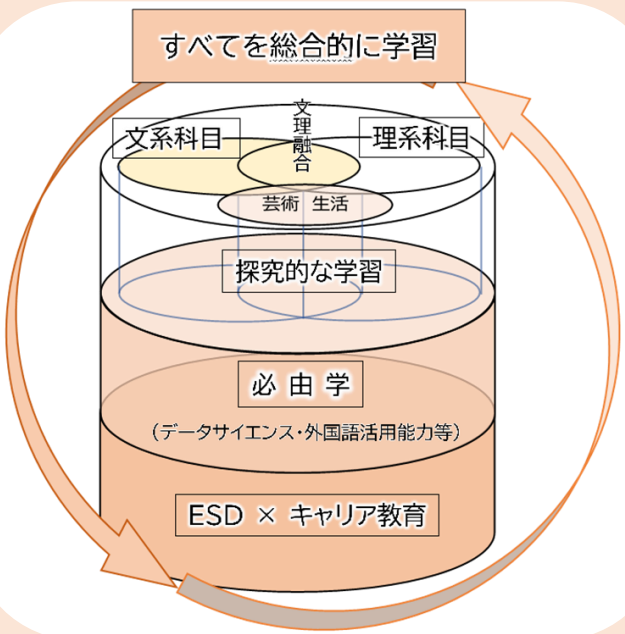
②「学校設定科目　必由学」の新設
持続可能な社会の創り手としての資質・能力を育み、「Well-being」としての社会情緒的能力などを醸成

③熊本市役所等、地域社会の資源を活用した課題解決型学習の充実
市役所の全面的な協力体制のもと、市立ならではの教科等横断的・探究的学習

④探究活動等で収集したデータを科学的に分析・検証し活用する力の育成
ICTを活用することにより、課題解決に向けデータを科学的に分析・検証し、表現する力を育成

⑤生徒・教師が主体的に学校づくりに参画する Agency School
生徒が授業づくりや校則の策定・見直しなど、生徒が学校創生に参画教育実践及び教育的効果を積極的に国内外に還元するとともに、自らの学びは自らが創る Agency School

『文理総合探究科』での学び（イメージ図）



令和5年度の目標

- 学校設定教科設置・探究的学習の充実に向けた教育課程の研究開発
- 職員研修・生徒研修の充実
- 新学科の設置向けた広報活動の充実
- 成果の普及
- 外部機関との連携体制の構築

令和５年度の取組・課題

学校改革プロジェクトチーム（コア会議〔週１～２回〕　学校改革プロジェクト委員会〔月１～２回〕）
・年間70回程度実施。・教育委員会のスクール・ミッションの策定を受け、スクール・ポリシーの検討から策定・教育課程の素案作成　・広報活動のための資料作成　・職員生徒研修の企画運営　などにおいて中心的な役割を担った。教育課程を具現化に向けて引き続き検討を進めていく。校内組織改編の検討を引き続き行う。

「出あう　つながる　ともに創る　～必由館でやりたいをカタチに～」をキャッチフレーズとし広報活動のキーワードとして活用
・熊本市WEB版広報誌・WEB版学校紹介リーフレット作成・YouTubeチャンネル・必由館Ｘ（旧Twitter））
・熊日進学ナビ掲載（地元進学誌）・おはよう熊本市　（ラジオ）・こんばんは熊本市（TV）
・学校説明会の開催（夏休中）　・芸術コース体験入学　・中学校訪問（令和５年８月～１０月）

・熊本市教育員会主催の教育イベント・外部団体企画において全国へ発信
・探究学習成果発表会へ中学１・２年生の生徒会を招待
・芸術コース音楽系：校外のホールを貸し切り成果発表会を実施
　美術系・書道系：公立美術館のホールを貸し切り卒業制作展を開催
・生活デザインコース（現：服飾デザインコース）：イベント会場を貸し切りファッションショーを開催

市役所全庁の全面的な協力のもと、地域・社会が抱える課題に対して様々な観点から仮説を立て、専門家や地域の力を借りながら自分の考えを深め、課題解決への糸口を見出す課題探究型の学習を行った。高校生が社会の一員として地域（熊本市）のよさや課題等を自分事として捉え、自己のキャリア形成と関連付けながらよりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育むことができるよう今後も取組内容のブラッシュアップを図る。